

2008年12月2日

福山駅前広場整備に関する懇談会

座長 古江 嘉弘 様

福山駅前水辺公園プロジェクト
代表 三宅国裕



福山駅前水辺公園プロジェクトの案について（要望）

拝啓 初冬の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

先般の福山駅前広場事業の懇談会では古江座長と事務局の皆様には格別のご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。

福山駅前水辺公園プロジェクト案について説明の機会をいただいた際に、ある委員の方より福山市の案だけではなく福山駅前水辺公園プロジェクトの案も公平に説明する機会を与えるべきだご発言されていました。市民の多くは市の示す案だけをもとに意見を求められる専門委員会や懇談会は期待されていないのではないのでしょうか。

私たちは、情報の公開と責任説明を求め、その上で、皆様と合意形成が計れば、みんなが納得できるまちづくりに近づけるものと信じております。

つきましては、福山駅前水辺公園プロジェクトの案を専門委員会、懇談会委員の皆様の前で具体的に説明する機会を設けていただきますようお願い申し上げます。

また、懇談会では時間の関係で懇談会委員の皆様に全資料 6 枚のうち 3 枚しか配布いたしておりませんので、専門委員会までに残りの 3 枚を加えた 6 枚の完全な資料を判断の材料として、専門的な見解をお聞かせいただき、専門委員会、懇談会要綱にうたわれた「交通結節機能と遺構の保存活用の調和」に基づいた福山駅前水辺公園プロジェクト提出の案に対するご質問、ご意見を具体的にお示しくさせていただきますようお願い申し上げます。

尚、私たちの案は福山市の基本レイアウト案に配慮して創られたものですが、無限の価値をもつ外堀遺構の顕在化により、広大な水辺空間の持つ憩い、福山の歴史と文化に根ざした魅力ある持続的な集客力の発揮、周辺不動産価値の向上、アメニティ、防災、環境など様々なメリットがあります。ループバスの利用とトランジットモールの考え方で交通機能と広場機能等を両立させ、中心市街地の賑わい創出、歩行環境整備などの市の中心市街地整備目標をも達成しながら、70 億円相当の公園が用地費なしで獲得出来るものと考えます。

また、歴史資源の利活用による独自性あるまちづくり、水系再生、将来の舟運を含むマルチモーダルシフトなど国の国土政策、時代の要請にも適っています。コスト負担が一見大きく思われますが、決してそうではなく、むしろリターンが見込まれ、運用次第で投資効果が十分に期待できることは売上げ 4 割増加を成し遂げたミュンヘンのモールやサン・アントニオ等の成功事例が既に証明しています。

中心部への流動客数からみるように、この 10 余年で半減以上の激しい衰退の流れを変えるには従来型の開発像からの大胆な発想の転換が求められています。

何卒、趣旨をご理解いただき、公開の場で委員の皆様にご説明できる機会を設けていただきますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、ご回答につきましては、専門委員会開催前までにいただきますようお願いいたします。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具